

加藤 裕一（かとう・ゆういち）先生

株式会社レコチョク 代表執行役社長

1982年 3月 早稲田大学 法学部 卒業
1982年 4月 日本ビクター株式会社 入社
1985年 10月 日本エイブイシー株式会社
(現ビクターエンタテインメント株式会社) 出向
2002年 4月 ビクターエンタテインメント株式会社
経営企画室部長兼ネットビジネス推進室長
2007年 6月 同社 代表取締役社長
2010年 6月 株式会社レコチョク 代表執行役社長



【参考になるHP】

- ・日本レコード協会 <http://www.riaj.or.jp>
- ・IFPI <http://www.ifpi.org>

《講義概要》

音楽産業の第一線でその発展に尽力する、株式会社レコチョク代表執行役社長の加藤裕一氏が、音楽配信ビジネスについて講義を行った。

講義ではまず、音楽産業や音楽配信市場の現状、レコチョク設立の経緯や「着うた」の成功要因等について、詳細なデータを提示しながら具体的に説明した。また、近年着うた・着うたフルの商品サイクルが衰退期に突入している現状を提示し、その原因として、違法配信・違法コピー問題やユーザーの利用目的の変化などが影響していることを示した。

さらに、音楽配信を取り巻く環境が変化している現状を様々な側面から説明し、変化に対応した新たなビジネスモデルの展開が求められていることを伝えた。その中で、深刻化している違法配信問題について、海外での対策や日本で行われている対策を紹介し、その課題や重要性を訴えた。

サービスの進化に対応し、「いつでもどこでも自分の好きな楽曲をどの端末でも楽しめる環境」を構築することが、今後の音楽配信にとって重要であると伝えた。音楽配信について消費者の立場ではなくビジネスとして現状と課題を見直し、分析するきっかけを学生に与えた。

《受講生の感想》

●音楽配信は97年に始まり、本格的に始まったのは99年、携帯は2002年だと聞き、驚きました。ここ十数年で音楽配信の形はとても広がったのだと知りました。違法配信について、違法サイトの利用数が2010年は落ちたとしてもやはり無くすのは大変だと分かりました。しかし、啓蒙活動をもっと進めて、無意識な違法行為を止めて少しでも減る世の中になくなって欲しいと思いました。また、音楽を提供する会社は時代に合わせた音楽配信の形を見出して、音楽文化を発展させているのだと分かりました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●今後の配信ビジネス、音楽産業を考える上で、違法DL対策、キャリアの動向、ネット環境を踏まえて、既存の考え方に留まらない発想で展開していくことが必要だと思いました。「まとめ」で先生が示された課題と展望のお話しは、大変共感できました。

立命館大学・映像学部・2回生

●音楽産業が維持されるためには、音楽をつくるアーティストにお金が支払われなければならない、配信サービスはユーザーと権利者との間の距離をどのように埋めるかということを考えなければならないなど、話がとても分かりやすく、とても理解できました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●今まで音楽配信ビジネスに対して、消費者・ユーザーとしての視点・知識しかありませんでしたが、今回の授業で歴史や他国の市場との違い、スマートフォン、ガラケーなど様々な面での関係を見て、とても複雑で、流れが早く、なおかつタイミングが重要な世界だと痛感しました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●今日の講義の中で一番驚いたことは違法ダウンロードに対する法的対策として挙げられた、スリーストライク法というもの存在でした。今の技術でそのようなことが出来るのかと驚き、参考になりました。クラウド化音楽配信に対する日本の時代の流れについて、パッケージを買わなくなった人に対してクラウド化は喜ばしく早速やってもらいたいことであると思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●Every time、Every where、Personalという言葉が印象的でした。どの端末でも同じサービスを受けられる環境が今求められていて、TPOに応じた全ての人々のための音楽配信がこれから開発すべきなのだ分かりました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

